



風景づくりの手引き

- 色彩編 -

平成 28 年 4 月

世田谷区

はじめに1

1 色彩の基本知識 2

 (1) 世田谷の風景と色彩2

 (2) 建築物等の色彩の考え方5

2 色彩基準の解説 12

 (1) ゾーン別基準.....12

 一般地域14

 風景づくり重点区域19

 (2) 風景特性基準23

はじめに

風景づくりと色彩

私たちが感じる風景は、色や形のほか、風や音、香りなど、五感を通して感性に訴えかけてくるものです。中でも建築物等の色彩は直感的な印象と結びつきやすく、外観イメージのみならず、周辺の街並みや自然との調和関係がわかりやすく現れる事象です。また、建築物等のデザインの中でも特に専門的知識を必要としないこと、またその調整においては大きな経済的負担を必要としないことから、検討しやすい風景要素のひとつといえます。一方、それだけに個人の嗜好が強く表れがちな側面もあり、時として周辺から突出した色彩が用いられ、風景に違和感を生じさせてしまうこともあります。

このように、色彩は簡単なようで奥深く、特に風景との関わりの中で、個々の建築物等の個性を加味しながらも適切な色を選ぶということは、大変難しいことといえます。

本書は、景観法に基づく景観計画である風景づくり計画（平成27年4月）の第4章「建設行為等に関する風景づくり（届出制度）」に示される風景づくりの基準（色彩基準）について、具体的な視覚的情報とあわせて解説することを目的としており、あわせて建築物等ならではの条件を踏まえた色彩選定の考え方、ヒントなどを紹介しています。

建設行為等を行う際には、建築物等の色彩選定の手がかりとして本書を参照してください。

1 色彩の基本知識

(1) 世田谷の風景と色彩

世田谷区は区全体面積のおよそ1/4をみどりとみずが占めており、都内23区の中でも有数のみどり豊かな住宅地です。建築物等の色彩を計画する際には、みどりの風景を活かし、周辺の街並みと調和する色彩を検討することを大切にします。

自然の色—みどりとみず

豊かな起伏の中に様々なみどりとみずが存在し、優しい色合いと季節の変化によって、風景にやすらぎと癒やしを与えています。

自然+歴史・暮らし・つながりを尊重し、周囲の街並みになじむ色彩

受け継ぐ色—歴史と文化

寺社や近代住宅地の面影を伝える民家、街道や古道、伝統的な行事など、歴史や文化を感じさせる色彩によって、風景に風格を与えています。

つながる色—みちと鉄道

幹線道路から緑道まで規模によって表情を変えるみちすじや、立体化が進む小田急・京王線、生活に溶け込む世田谷線沿線は、風景をつなぎその場らしさをつくり出しています。

暮らしの色—住宅地と商業地

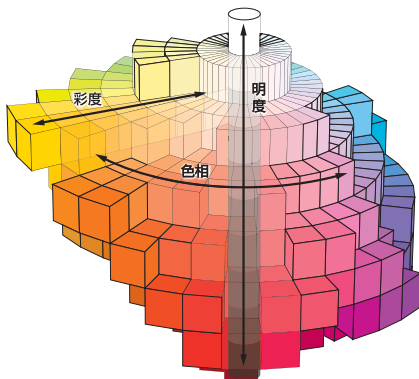
近郊農村から変化する中で築かれた住宅地と、駅や通りを中心に活気や生活感に溢れる商業地とが一体化し、風景にメリハリと多様性を与えています。

色彩の表示体系—マンセル表色系

色彩の三属性

Setagaya Color Guide

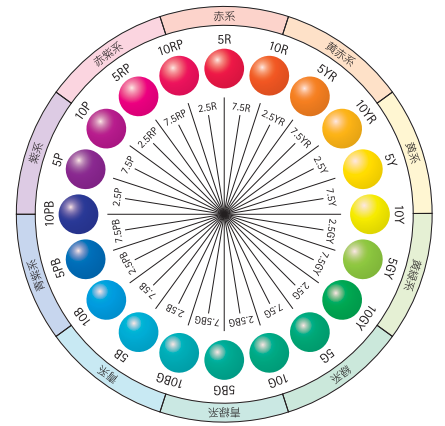
色が持つ3つの性質(色相・明度・彩度)を色彩の三属性といいます。どのような色もこの3つの性質によって分類・表示することができます。



■図 マンセル表色系の構造

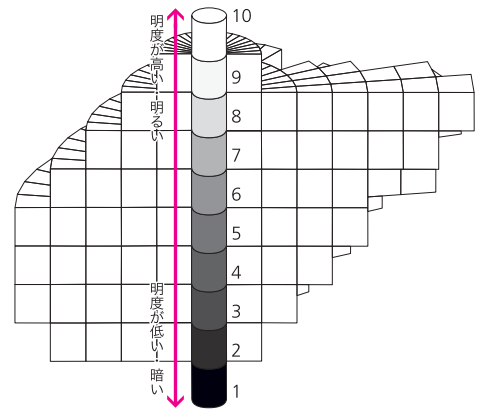
しきそう 色相

色相は赤・青といった「色合い」を表すものです。10種の基本色の頭文字をとったアルファベットとその度合いを示す数字を組み合わせることで表記します。



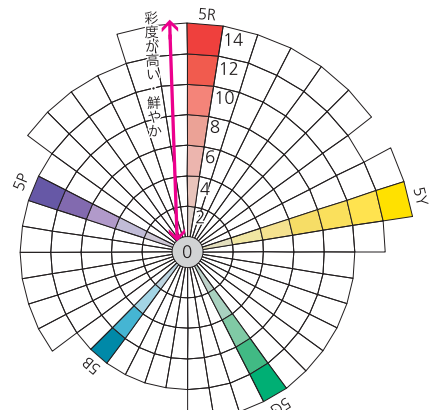
めいど 明度

明度は明るさの度合いを表す尺度で、0から10までの数値で表します。暗い色ほど数値が小さく0に近くなり、明るい色ほど数値が大きくなり10に近くなります。



さいど 彩度

彩度は鮮やかさの度合いを表す尺度で、0から14程度までの数値で表します。鈍い色ほど数値が小さく、鮮やかな色ほど数値が大きくなります。最も鮮やかな色の彩度は、色相によって異なり、赤や黄では彩度14程度、青や緑では8程度です。



マンセル値

Setagaya Color Guide

街並みの色彩を考える場合は、一般的に色彩の三属性を併記したマンセル値を使います。

マンセル記号

マンセル記号は、色相、明度、彩度を組み合わせ、色彩を定量的に表します。

無彩色はN4.0のように表記します。(彩度は0なので省略します)

桜の葉の色



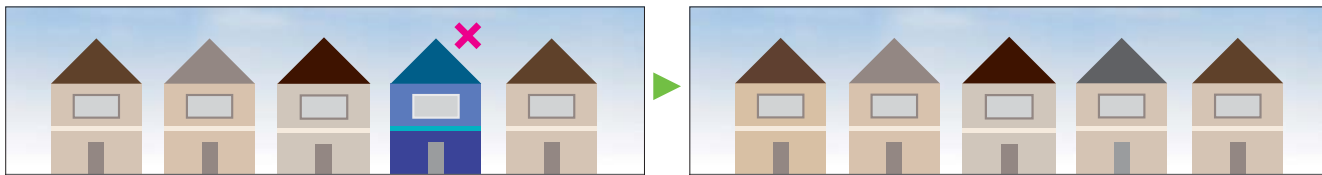
ななてんごじーワイよんのろく

7.5GY 4 / 6

色相 明度 彩度

色相と風景

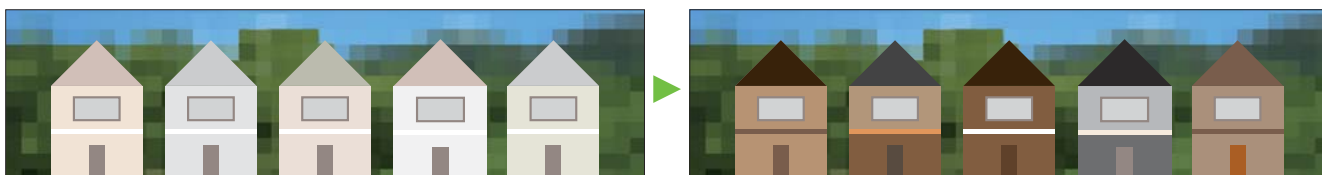
区内の建築物等の外観に多く用いられている色は、暖色系（YR系・Y系等）となっています。こうした暖色基調の街並みの中で異なる色相を一定の面積で用いると違和感が生じやすいため、色相を整えることが大切です。



■図 街並みから突出する寒色基調の建築物

明度と風景

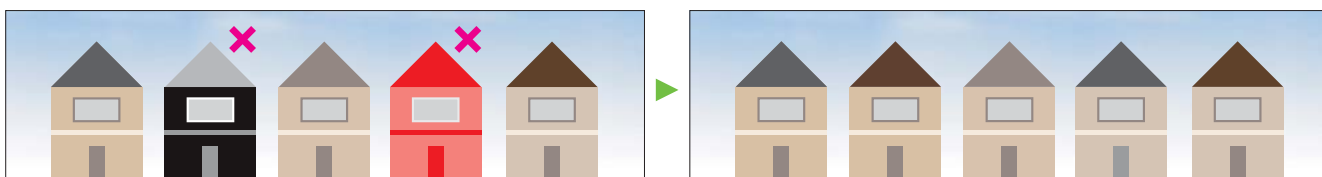
周辺のみどりが豊かな場所では、建築物等の明度が高くなりすぎると、みどりの色（明度3～6程度）との対比が大きくなり、周辺の風景から突出したような印象を与えます。周辺の風景を十分に観察し、調和する色を選ぶことが大切です。



■図 背景のみどりに浮き立つ高明度色

彩度と風景

建築物等の外観には、彩度0.5から4程度までの低彩度色が多く用いられています。彩度の高い派手な色彩は、目立ちすぎて街並みの調和や連続性を乱す要因となるため、周囲から突出しないように十分な配慮が必要です。



■図 街並みの連続性を損なう高彩度色や無彩色の建築物

マンセル値の調べ方

マンセル表色系を尺度とした色彩基準は全国的に普及していることから、使用予定の材料についてメーカーなどに問い合わせれば、マンセル値がわかります。また、カタログ等にマンセル値を記載するメーカーも増えています。

マンセル値を自分で調べる場合は、日本塗料工業会標準色見本帳など、マンセル値の記載がある色見本帳を使って近似色を探します。



■写真 マンセル表色系に準拠した色見本帳